

イタリア・ローマ

木村玲二

2019年の8月、1週間ほどイタリア・ローマ近辺をプライベートで訪れました。行きは羽田からフランクフルト経由で、ローマのフィウミチーノ空港に入り、滞在先のテルミニ駅までレオナルドエクスプレスの特急を使いました。滞在中の移動のほとんどはMetro（地下鉄：今でも延長されていますが、工事のたびに遺跡が発掘され、工事がなかなか進まないらしい）です。帰りはウイーン経由で羽田に戻りました。

私は恥ずかしながら歴史や地理に非常に疎いので、イタリアについてはサッカーのセリエA、ランボルギーニ等のスーパーカーやF1、バイクのDucatiやApriliaが参加するMotoGP等のモータースポーツ、ローマについては「すべての道はローマに通ず」や「When in Rome, do as the Romans do」とか、あとはピザ、パスタぐらいしか想像できなかったのですが、1週間ほどの短い滞在でさえ数えきれない衝撃（紀元前からの数千年にわたる歴史と芸術、美術、建築、自然、国民性等）を受けることになり、自分の知識の浅さを嘆くことになりました。比較しても意味はないのですが、日本のこういう時代にイタリアではすでにこのような芸術、文化、社会が発達していたのかと考えざるを得ませんでした。乾燥地の研究と同じですが、「百聞は一見に如かず」ですね。

滞在中はとにかく暑く、雲一つないきれいな青空でした。連日最高気温が37～38℃と高く、熱中症になって倒れている外国人観光者を見かけました。日差しがとても強く、多少蒸し暑さを感じましたが、この時期の鳥取ほどではありません（日陰に入ると涼しいです）。今年はヨーロッパの熱波が話題になりましたが、予想でも2100年頃にはイタリアは乾燥地に区分されるほど干ばつ傾向になると予想されており、実際に行ってみると心配になります。イタリアでは、痩せた土地ではオリーブやヒマワリ、水はけのよい斜面ではブドウが栽培されています。温暖化に伴い、イタリアの農業がどうなるのかも気になるところです。

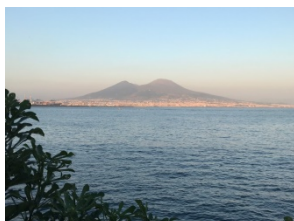
ローマ到着は午前中着の便であったため、時間がたっぷりあったので、ヴァチカンを訪れることにしました。ヴァチカンはローマ市内にある一つの国家であり、カトリックの総本山でもあります。私の高校はカトリック系だったので訪問できただけでも意義深かったのですが、やはりその豪華さに目を見張るものがあります。1500年代の終わり、4名の日本人少年使節団（天正遣欧少年使節）が法皇に謁見したそうです。この4名の青年のその後の悲しい運命は歴史を勉強した方はご存知のことでしょう。



ヴァチカン博物館は、歴代の法王が財力を注ぎ込んで集めた数多くの美術品があります。続いて、ラファエッロの間、システィーナ礼拝堂（今でも法王の選挙が行われているそう

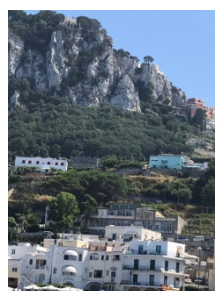
です)です。礼拝堂の天井にはミケランジェロによるフレスコ画(天地創造から人類再生までの歴史が順に描かれています)、そして祭壇の奥には「最後の審判」があります。その後、カトリックの総本山であるサン・ピエトロ大聖堂を訪れました。私の今まで見てきた聖堂とは明らかに異なる規模、装飾そして荘厳さを持つ教会でした。ついでにクーポラ(円屋根)に登り、ローマの眺めを堪能しました。

2日目はポンペイの古代遺跡です。紀元前に発達した古代都市で、生々しい人間臭さに溢れる生活空間が見事に形成されていま



す。皆が集まる広場、運動場、神殿、浴場、サウナ、パン屋、居酒屋、円形劇場、家屋、水道、石を綺麗に敷き詰めた道路など、約1km²の空間に想像力を掻き立てる遺跡がいくつも残っています。これほどきれいに残っているのは、79年のヴェスヴィオ火山噴火により町が火山灰に飲み込まれたことによります。次いで、レモンの生産地であるソレント(歌で有名ですね)へ行き、レモンのパスタをいただきました。

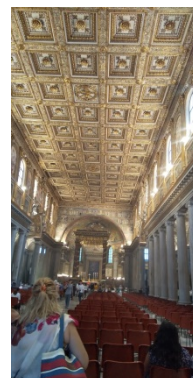
そこでフェリーに乗船し、カプリ島へ移動しました。カプリ島の絶景を楽しんだ後、小型ボートに乗り換え、青の洞窟へ。洞窟前にはたくさんの観光客が船上で待機しており、我々も1時間ほど揺れるボートの上で待ちました(もちろん、船酔いで観光どころじゃない人もたくさんいました)。しかし、その後の青の洞窟の



美しさと言ったら、とても写真や映像だけでは分からないでしょう。カプリ島のレモンのシャーベットはレモン100%であろうもので、この旅で私の一番のお気に入りとなりました。ちなみに、リモーネのジュラートも最高です。夜ご飯は、ナポリ(民謡のサンタ・ルチアが有名ですね)でピザをいただきました。やはり、ナポリのピザは絶品でしたが、一人分の量がとても多いので、3人で2枚くらいが丁度いいかもしれません。



3日目はテルミニ駅近くにあるサンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂を訪れました。イタリア人はもともとお母さん(マンマ)のことが大好きで、マリア様のことも大変敬愛しているそうです。イタリアの教会には「サンタ・マリア」と名の付く協会が多いのはそのためでしょうか。日曜の午前中だったので、ちょうどミサを見学することができました。外国においてミサを見学するのは初めてでしたが、パイプオルガンの音色と讃美歌の清らかさに心を打たれました。あとは、スーパーや大型ショッピングモールに行き、イタリアの食材事情を見たり、お土産を買ったりしてゆったり過



ごしました。

4 日目はまず、ポポロ広場に行きました。中心にはエジプト産のオベリスクと噴水、正面にはフラミニオ門（ポポロ門）があり、反対側には双子教会と巡礼者が通る 3 本の道があります。1500 年代の終わり、4 名の日本人少年使節団（天正遣欧少年使節）がここを訪れたそうです。このような広場は人の集まる場所でもありますから、見世物や祭り、処刑までもが行われていると聞くと見方が少し変わります。広場にあるサンタ・マリア・デル・ポポロ教会を見学しました。教会の美しさは当然ですが、内部にはかなりの美術品があり



カラヴァッジョ作の「聖パオロの改宗」や「聖ピエトロの逆さ磔」、見たらご利益のあるビザンチンの「マドンナ・デル・ポポロ」、ベルニーニの彫刻等、美術家にとっては大変貴重なものがあります。ここから 3 本の道の一つを歩いてピンチョの丘へ。眼下にそびえるローマの町は絶景です。続いて、観光ではお馴染みのスペイン大使館のあるスペイン広



場、トレヴィの泉、ベネチア広場、フォロ・ロマーノ（ローマ発祥の地）、そしてコロッセオを訪れました（この辺りは NHK のブラタモリでも詳しくやっていましたね）。歩いている間に驚いたのが、ローマにはいくつもの水くみ（飲み）場があることです。石灰質の地盤なので、日本人が不慣れな硬水だそうですが、十分に飲むことができます（私はガブガブ飲みましたが、大丈夫でした）。外国で生水を飲むなんてことは今までありませんでしたので、古代からこのような水道が整備されていることにローマ人の賢明さを感じます。



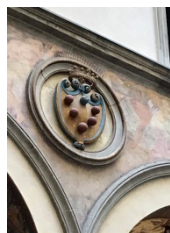
5 日目は「死に行く町」チヴィタ・ディ・パニョレッジョへ。古代ローマから続く天空の町はもろい凝灰岩地質のため風食が続いており、いつかは消え去る運命であるといわれます。「天空の城ラピエタ」のモチーフともいわれており、神秘的なその姿は大変な絶景ですが、たどりつくまでかなり急な橋を渡らなければなりません。街並みはきれいで美しく、周囲の農村風景もヨーロッパらしさを醸し出しています。次いで、丘の上に作られた要塞のよう



なオルヴィエートの町です。白ワインでも有名ですね。昼食時間が長くて、あまり時間がなかったのですが、メインストリートの shop や作成に数百年も要したゴシック建築のドゥオーモ（ドゥオーモとは街を代表する教会堂の事を言います：内部にはサン・ブリツィオ礼拝堂があります）は見る価値があります。ちなみに、町のやや中心にあるサン・ドメニコ教会は庶民的なたたずまいの質素な教会で私は好きです。



最後の日はテルミニ駅から高速鉄道レ・フレッチェに乗ってフィレンツェに行きました。そぞろ歩きをしましたが、とにかくメディチ家（英語の medicine はメディチから来ているそうです）の栄光と財力、権力等をいたるところで見ることができます。そして、ルネッサンス時代の建築や絵画、細い路地と街並みが印象的です。長さを図るための壁のくぼみ、馬をつなぐ鉄輪、ワインポストなどが今でも残っています。レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、その他天才芸術家の絵画や彫刻がいたるところで見られ、この街だけでも長い間滞在する価値がある、私にとっては今回の旅の最も興味深い町でした。お馴染みのドゥオーモ

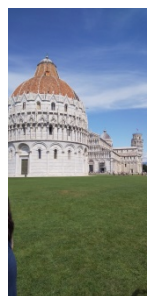


（サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂（花の聖母教会）、ジョットの鐘楼（ダンテの「神曲」でも触れられています）、サン・ジョバンニ洗礼堂（ダンテ



が洗礼を受けたそうです）、ヴェッキオ宮殿、ヴェッキオ橋（川と街並みが織りなす風景が美しい）、シニョーリア広場（ダヴィデ像（コピー）がある）などを見学しました。ドゥオーモは白と緑とピンクの 3 色の大理石で彩られており、紺青の青空とマッチングしてとてもきれいです。その後、足を延ばしてピサを訪れました。

ドゥオーモ、斜塔、洗礼堂の 3 大遺産を見学しました。斜塔の階段は大理石で出来た 250 段のらせん階段で（ピカピカにすり減っています）、登った後はすばらしい郊外の風景を見渡すことができます。この辺りは、掘ると今でも遺跡がたくさん出てくるようで、掘っていない場所は立ち入り禁止の芝場となっていました。



総じて、イタリアの人はとても親切でやさしいです。観光客も多いためか、ほとんどのバールで英語は通じました。レストランのメニューはさすがにイタリア語なので、イタリア語が分からないと苦労します。翻訳アプリがあればある程度分かるので、便利でしょう。

この時期はイタリアの人にもバカンスで店を閉めてしまうので、かなりの数の店が休みに入ります。あと、面白いと思ったのが「踏み絵詐欺」ですね。フィレンツェに行った時ですが、人で混雑しておりなおかつ建築物で圧倒されるような場所の地面に印刷物の絵が数枚並べられています（見た目はきれいな絵）。絵の周辺には怖そうな青年が5名ほど取り囲んでおり、知らずに踏んでしまうとお金を請求されてしまいます。踏んだ人を偶然見ましたが、すごい勢いで追いかけてられました。とにかく、いろんな方法でお金を得ようとする人達がいるので、特に気の弱い日本人は注意が必要でしょう。イタリアンはもちろん美味しいですが、ハマったのはコーヒーとジェラートです。コーヒーは本当にどのバールで飲んでも美味しく、特にエスプレッソは絶品です。北部のミラノやベネチアを含め、もっと予備知識を備えてから再度イタリアを訪れてみたいですね。

